



すべて筆先は蔵鋒で書きます







「鄭羲下碑」を倣書で書いています

◎鄭羲下碑は、北魏時代の鄭道昭の書で、岩壁に刻した石碑である。うねりを帯びていて、雄大で、円勢（丸みをおびた趣）に富んでいる。

◎倣書とは、古法帖から感じられる結体、結構、性情をもとにして作品を作ること。

遙かに隔つ　楚雲の端

遠く楚の雲のかなたに隔てられている

（孟浩然の詩より）

一般　楷書　11月

書道総研